

彩の歳時記

平成二十二年 四月



ねんねんさいさい あいに
年々歳々花相似たり
さいさいねんねん
歳々年々人同じからず

「毎年、花は同じように咲くが、この花を見る人々は変わっていく」

唐の詩人、劉廷芝【651～678】の詩

「白頭を悲しむ翁に代りて」の有名な一節。

去年、一緒に桜を観た人々が少しずつ、様変わり

してゆく様子は、芭蕉の「さまざまな事思ひ出す桜かな」の句と共に、私たちに
人生の移り変わりを実感をもって感じさせてくれます。

四月の異称

卯月 卯の花の咲く月 卯の花は、古くから日本人に親しまれ、満月が卯の花を

照らす様を「卯の花月夜」と愛でた。陽光に恵まれる月で「正陽」「純陽」「六陽」なども。

四月の暦

一日 エイプリルフル 万愚節(日本)

新会計年度始 明治維新後、政府の財政難から、暦年(江戸時代は一月～十二月)と合わせられず

「年度」が作られたが、流動期を経て、明治十七年の会計法改正後の十九年に制定。秋の収穫
後の徴税に合わせ、この日になったとされている。

二日

連翹忌

詩人・彫刻家、高村光太郎【1883～1956】の忌日。高村が生前好んだ花が
レンギョウであり、告別式で棺の上にその一枝が置かれていたことに由来。

東京府下谷区(現台東区)出身。東京美術学校の彫刻科に在籍中、与謝野鉄幹主宰の
『明星』に寄稿するなど文学にも関心を寄せた。一九一四年の「僕の前に道はない…」
ではじまる『道程』は、雑誌『青鞥』の表紙絵を描いた長沼智恵子(智恵子抄のモデル)
と結婚した年に出版。このころ住んでいた千駄木のアトリエは、現存し、甥で写真家
の規(ただし)氏の住居。父は、高村光雲(こううん)で上野の西郷隆盛像・皇居外苑の楠公像を制作。



五日

清明【二十四節気】

清浄明潔、春先の万物が清らかに明るく生き生きしているさまを表した言葉。

八日

灌仏会・花祭り

仏教の開祖、釈迦(ブツタ)の誕生日とされる日。灌は、灌ぐの意で釈迦誕生の時、
産湯のため九頭の竜が天から清浄の水をそそいだとの伝説に由来。

釈迦誕生の木が無憂樹(むうじゆ)、釈迦入滅の木は沙羅双樹(さらそうじゆ)、
仏陀開眼の木が菩提樹で仏教の三大聖木。菩提樹は最も神聖とされ、インド、タイなどの
寺には必ず色布を巻かれた大きな菩提樹が植えられている。



二十日

穀雨【二十四節気】

百穀を潤し、新芽を出させる春の雨を表現した言葉。

昭和の日 昭和天皇の誕生日。1989(昭和64)年の昭和天皇崩御後は「みどりの日」とされた
が、2005年の祝日法改正により、2007年からは「昭和の日」となり「みどりの日」は五月
四日に変更された。

四月の歌

菩提樹 (ぼだいじゆ)

シューベルト【1797～1828】の歌曲集「冬の旅」の第五曲。

1823年の『美しき水車小屋の娘』と同じ、ドイツの詩人、ヴェルヘルム・
ミュラー【1794～1827】の詩集から。歌われているのはセイヨウボダイジユ
(リンデンバウム)で中世ヨーロッパでは、自由の象徴とされ、ヨーロッパの都市
の街路樹に多い。釈迦が悟りを得て、**仏陀(35歳?)**となった木は**クワ科**で**インド**
ボタイジユ。仏陀の別名、**ボーディ**(Bhodi)から「ゴータマ・ブツダの木」。
日本の菩提樹は中国原産で、**臨濟宗**の祖、**栄西**が持ち帰ったと伝えられる。
訳詞の**近藤朔風【1880～1915】**は「ローレライ」「野薔薇」の詞でも有名。

泉にそひて、繁る菩提樹、
暮ひ往きては美うまし夢みつ
幹には彫(ゑ)りぬゆかし言葉、
嬉し悲しに訪ひし
そのかけ
訪ひしそのかけ。

